

【アメリカ視察報告②子牛の管理】

はじめに

皆さんこんにちは！今回も引き続き10月のアメリカ視察の報告について掲載させていただきます！

今回は視察した数件の農場の中から、子牛の管理についてピックアップしたいと思います。

出生直後の管理と初乳

① 分娩監視

今回視察した多くの農場が、分娩を監視する役割を従業員さんに割り与えていて、基本的に分娩後2~3時間以内に初乳給与や臍の消毒などの処置を行っていました。



視察した農場のうち2件ほどで、分娩房に子牛の処置スペースを併設していました、左側の写真は、子牛をお湯で丸洗った後にしっかりと乾かすためブローアまで設置していた写真です。



また、ほとんどの農場でこの写真のような体重計を設置しており、出生直後の体重の計測を行っていました。

② 初乳給与と管理

1) 給与時間

出生から給与までの時間ですが、ほとんどの農場で遅くとも2~3時間以内に行っているとのことでした。これは分娩監視の従業員さんがルーティンで行うそうで、すぐに初乳を飲みたがらない場合は1時間後に再給与するもしくはストマックチューブで給与しているという農場が多かったです。

2) 給与する初乳



初乳の内容に関して、初乳製剤を主に給与する農場もありましたが、糖度計や比重計を用いて良質な初乳を冷凍 or 冷蔵して給与する農場の方が多かった印象です。パスチャライズはすべての農場で行っていました。写真右の装置は設定した温度に初乳を自動で温めてくれる機械です。

3) 初乳給与のその後

今回子牛に関して一番衝撃を受けたのがこの3)についてです。数件の農場、および1件の子牛預託農場で出生24~48時間以内に糖度計を用いて血液BRIXを計測していました。



勿論日本でもこの血液BRIXの測定はメジャーになってきていますが、生まれてくる頭数の多い大



Total Herd Management Service

規模牧場でも一般的に行われているとわかりました。

血液 BRIX を測定している農場では、血液 BRIX の数値を含めた以下のデータを後継牛の選抜に使用していました。

- ① 血液 BRIX (極端に数値の低い牛は後継牛が極端に少ない場合を除き早めに市場で売却する)
- ② 双子か否か (双子で生まれてきた子牛は体重の増加が遅い為売却する)
- ③ 出生～離乳までの ADG (体重増加)

哺乳舎について



視察した半数ほどの農場で哺乳舎に陽圧換気を設置していました



この哺乳舎は①牛舎手前→奥②中央通路→左右③ハッチ頭側→尾側と数か所に分けて傾斜をつけており、ハッチや中央通路に水分がよどまないように設計されていました。この写真はハッチ清掃中の写真で、1カ月間敷料を継ぎ足して交換は1カ

月に一度というルーティーンだそうですが、驚くほど敷料が乾いており、牛舎内の傾斜の重要性に感動しました。

その他にも、4件の農場で前回掲載したエコーによる肺炎モニタリングを行っていました。

除角

ほとんどの農場が出生～2日以内にペースト除角を行っていました。



ペースト前には、①鎮静剤②局所麻酔③消炎剤 (メロキシカム) を投与しており、ペースト除角による疼痛コントロールもしっかりと行っていました。

まとめ

今回の視察で見た子牛の管理について、一言で表すと、「とにかく基本に忠実!」ということです。分娩・初乳の管理、血液 BRIX による免疫のモニタリング、除角の徹底、体重測定などとにかく群管理のためにできることは徹底的に行う! という感じでした。

血液 BRIX の測定は僕も何件かの農場で実践させて頂いていますが、スポット的に計測していたので、これからは体重の測定と合わせてルーティーンでデータの収集をやっていかねば! と、とてもいい刺激を視察で与えて頂きました。

子牛の血液 BRIX 計測などにも興味のある農家さんがいらっしゃいましたら、ぜひ一緒に取り組みをさせて頂きたいので岩泉までご連絡お願い致します!



Total Herd Management Service